

令和4年度 中野区立桃園第二小学校 学校経営計画 (報告書)

<p>学校教育目標</p>	<p>中野区教育委員会の教育理念「一人ひとりの可能性を伸ばし、未来を切り拓く力を育む」をふまえ、人権尊重の精神を正しく理解し、豊かな心をもった人間の育成を目指し、知・徳・体の調和がとれた人間性豊かな子ども、「考える子」「思いやりのある子」「元気な子」の育成を図る。</p>		
<p>目指す子ども (幼児・児童・生徒)像</p>	<p>考える子…………… 基礎的、基本的な内容を理解し、興味・関心を高めて学び、思考力・判断力・表現力を身に付けて、主体的・対話的に学ぶ子</p> <p>思いやりのある子… 優しい心で他者とかかわり、互いのよさを認め、励まし合い、喜び合い、高め合うことができる豊かな感性をもつ子</p> <p>元気な子…………… 運動に親しみ、自分の健康に目を向け、すすんで心身を鍛え、健康の保持増進と体力向上に努める子</p>	<p>目指す学校 (教師像を含む)</p>	<p>○ 「子どものために、子どもとともに」を合言葉に、子どもを第一に考え、全教職員が一丸となって働く学校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもが、安心して生活し、自分の力を発揮する喜びを得られる学校</li> <li>子どもが、できる喜び、分かる喜び、共に学ぶ楽しさを実感できる学校</li> <li>教職員が互いに切磋琢磨して、指導力や組織力を向上させる学校</li> <li>子どもの教育に当たって、保護者や地域等と連携し、地域と共に歩む学校</li> </ul>
<p>教育目標を達成するための基本方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これからの新しい時代を生きる子どもたち一人一人が、個性と能力を発揮し、人間性豊かにより高い自分の夢や希望を実現できるよう、学校は、常に最善を目指して教育環境を整える。そのためには、一人一人の子どもの実態や心の変容を的確に把握し、明確な指導目標のもと、組織的・計画的な教育活動を展開する。</li> <li>教職員は、子どものために、変化に臆せず、自らすすんで工夫・改善・創造に取り組むとともに、指導技術や職務にかかわる知識・技能を、互いに交流し合い、磨き合う。過去の功績や成功に執着せず、新しい時代に対応した学校教育を創造する教職員集団を目指して、常に建設的に議論し、異論に学び合う。教育活動の充実のために、教職員一人一人の心身の健康と、教育に携わるものとしての充実感をもてる職場とする。</li> <li>計画的で一貫性、透明性のある教育を実践し、子どもたちが自信をもって力を発揮することができるようにするとともに、事故を防止する。</li> <li>学校経営方針及び、教育計画の十分な説明と学校公開、保護者会、教科や道徳の授業地区公開講座、学校評議委員会、学校関係者評価委員会等を計画的に行い、「保護者、地域に開いた信頼される学校」を目指す。</li> </ul>		

今年度の重点

A 重点目標	B 中期経営目標 (数年間でどのような状態にするか)	C 短期経営目標 (今年度末までにどのような状態にする)
<p>1 【知(確かな学力)】 これからの時代を生きる児童に必要な確かな学力の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童が自ら課題を見つけ、課題解決し、自分の考えを表現し合って、児童が自分の言葉で学習を進め、児童どうしや教師と対話しながら学びを深める力を育む。</li> <li>○ SDGsを視点に、児童が自ら課題を見つけ、その課題解決のために調べ学習や問題解決学習に取り組めるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 主体的・対話的で深い学びを実現する算数科授業についての研究成果を、11月11日に発表する。</li> <li>○ 問題解決課程を明確にするとともに、デジタル技術を活用する探求学習を、総合的な学習の時間、生活科の学習で進め、自ら課題を見つけ解決する学習に全校で取り組み、夏休み明けと3月に発表会を行う。</li> </ul>
<p>2 【徳(豊かな人間性)】 自他の良さを認め、社会で自立できる人間性の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童が、将来、困難や苦勞を感じながらも、健康で前向きに学び、改善を図ろうとする人間へ成長しようとする心を育む。</li> <li>○ 多種多様な考え方を理解し、多様性を認める心を育む。</li> <li>○ 児童が将来、自らすすんでコミュニケーションを図り、多くの人から愛される人間へと成長できるよう、所作や心を育む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域や保護者に加え、外部の専門家や教育・文化施設等の外部教育力を活用して、年間50回以上の特別授業を実施する。担任が主となって、教育課程に位置付けた授業となるよう徹底する。</li> <li>○ 挨拶・返事・後始末を徹底する。毎朝校門で児童を迎え、挨拶・返事の指導を徹底する。先語後礼の挨拶を確実にできるようにする。毎朝校内を点検し、教室や靴箱の様子を確認して教員を指導し、後始末の指導を徹底する。</li> </ul>
<p>3 【体(健康・体力)】 これからの時代を生きる児童の生きる力を支える体力、行動力の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 体育科の授業改善と、体育的行事、体育的活動を行って、運動量を確保し、体力・運動能力の向上を図ることで、児童が運動への意欲を育む。</li> <li>○ 感染症の予防と良好な生活習慣の形成を図る生活態度を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 校内研修の中で、体育科の授業改善に取り組み、授業において運動量を確保する。</li> <li>○ 専門家を招いて投げ方教室、縄跳び教室等を行い、技能と意欲の向上を図る。</li> <li>○ 命の授業、がん教育、感染症の予防、生活習慣病の予防、喫煙・飲酒の害等の健康課題についての専門家を招いて特別授業を行って、児童の知識を高める。</li> </ul>
<p>4 【安心・安全な学校づくり】 児童が自己実現できる環境の整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 次のことを行って、児童が安心と安全感じられるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ いじめの未然防止・早期発見・早期対応を行い、重大事態を発生させない。</li> <li>・ 登校しぶり・不登校の原因を究明し、生命に関わる事態を発生させない。</li> </ul> </li> <li>○ 個性尊重、特別支援教育を徹底し、児童に自他を認められる心を育む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ いじめによる重大事態防止のため、アンケートの年6回実施、発見即日の組織対応、対策委員会の毎月実施を徹底する。</li> <li>○ 不登校による重大事態防止のため、連絡と安否確認の徹底し、不登校対策担当教員を中心とした原因究明体制、SC、SSW、民生児童委員と連携した家庭の支援体制を確立する。</li> <li>○ 授業・教室のUDに加え、人的環境のUDを構築し、児童の問題行動の背景を特別支援教育の視点や家庭環境から分析して、児童の心の安定を図る体制を確立する。</li> </ul>
<p>5 【学校における働き方改革】 教育に携わる者としてのライフワークバランスの充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童の成長の喜びと、教育に携わる者としての喜びを両立する職場をつくり、教職員が、教育に携わる者としての自己実現を図れるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教育活動の重点や精選について教職員と毎日対話し、教職員が意欲をもって働き、働き方と教育目標実現を両立する。休憩時間確保と勤務時間終了厳守、有給休暇の取得を推進する。</li> </ul>
<p>6 【保幼小中連携】 児童・生徒の健全育成に向けた学びの連続性を構築する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小中9年間の学びの連続性を構築する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 外国語科の授業を中心に、中学校教員による乗り入れを積極的に行って、児童の中学校進学への期待を高めるとともに、小中連携教育の取組に対する保護者・地域の理解を深める。</li> </ul>

重点目標を達成するための今年度の取組と評価基準・評価結果

A 重点	C短期経営目標(年度末までにどのような状態にするか)	具体的な方策	具体的な取組		成果		自己評価				学校関係者による評価			
			評語	取組に関する指標(可能な限り数値で)	評語	成果指標(可能な限り数値で)	取組指標		成果指標		考察(コメント)	改善策	評語	主な意見
							中間	年間	中間	年間				
1 知(確かな学力)	主體的・対話的で深い学びを実現する算数科授業についての研究成果を発表する。	児童が、数学的な考え方を基に、自分の考えを発し、その言葉で進める授業を毎日行う。9月までに6回研究授業を行う。	A	十分にできた。	A	目標達成率…90%以上	B	B	B	B	教員は、自分の授業において、児童が主體的であるか、児童の主体性を引き出すことができたかを意識して授業するようになった。	国語、社会、理科、生活、総合的な学習の時間における問題解決型学習の行い方について学び、常に問題解決型学習を行える力量を教員が身につけられるようにする。	A	研究発表は素晴らしかったです。今後の課題が改善され、ステップアップとなることを願っています。11月に研究成果を発表され、他校・園の大きな学びとなりました。主體的・対話的で深い学びの実現を日々の授業で具体的に取り組み、成果を示してくださったことが大きいと思います。学芸会、入学式、卒業式などで、子どもたちが全員参加で積極的に発言し、問題に主体的に取り組んでいると感じられます。教員の方々の忍耐強い指導がうかがえます。先生方が、いろいろな工夫を凝らし、子どもたち一人ひとりの力を引き出す様子がとても素晴らしいと感じました。
			B	ほぼ十分にできた。	B	目標達成率…80%以上								
			C	やや不十分であった。	C	目標達成率…70%以上								
			D	不十分であった。	D	目標達成率…70%未満								
	児童が、デジタル技術を活用して、調査・探求、まとめ、発信を行えるようにする。	総合的な学習の時間と生活科の学習成果の発表会を、夏休み明けと3月に行う。	A	十分にできた。	A	目標達成率…90%以上	C	B	C	B	探求学習の課題設定等の学習の進め方について、教員の理解が不足している学級があった。	総合的な学習の時間、生活科の年間指導計画を再検討し、全学級で同じように学習を進められるようにする。	B	少年算数教室や手を動かして考える授業の工夫など、先生方の創意工夫に感動しました。一方、デジタル技術の活用点では、先生方により得意・不得意がある分野だと思っておりますので、学校としてのスタンダードを作っていたいただきたいです。デジタル技術を活用することは、これからの時代に必要なことと思っておりますので、ぜひ細心の注意を払って活用していただきたいと思っております。子どもたちには、パソコンを習得し、広い世界、深い知識に接してほしいです。
			B	ほぼ十分にできた。	B	目標達成率…80%以上								
			C	やや不十分であった。	C	目標達成率…70%以上								
			D	不十分であった。	D	目標達成率…70%未満								
2 徳(豊かな人間性)	外部の教育力を活用した授業を行う。	外部の専門家や教育・文化施設を活用して、年間50回以上の特別授業を実施する。	A	十分にできた。	A	目標達成率…90%以上	B	A	B	A	4年後の新校舎完成に向け、桃ニスクールコミュニティを形成し、外部教育力を充実させたい。	明和中学校区の取組を、保護者会や学校評議員会で紹介し、地域・保護者の意識を高める。	A	地域の方、外部講師を積極的に招き、児童の経験の幅を広げ、豊かな心の育成につながっていることがよくわかります。人とのつながりを大切にされている学校だと思います。専門家に触れ合うことはとてもよい経験だと思います。子どもたちが知的好奇心を広く目覚めさせていると思います。ぜひ続けていただきたいです。特別授業を積極的に実施いただき、児童もたくさん刺激をいただいた1年でした明和中校区のCSについては、地区懇談会の区別化など、外から見ても分かりにくい点が多いので、今後の説明に期待したいです。挨拶は基本だと思います。街でも挨拶が聞けるとよいですね。挨拶は、子どもたちだけでなく学校職員も素晴らしい。おとなの姿勢が子どもたちを育てていると感じます。挨拶・返事・後始末は人格形成の一部であり、基本動作として習慣づけてほしいです。子どもたちがとても落ち着いているように見受けられ、外部から来ても挨拶されることが多く、素晴らしいと感じます。
			B	ほぼ十分にできた。	B	目標達成率…80%以上								
			C	やや不十分であった。	C	目標達成率…70%以上								
			D	不十分であった。	D	目標達成率…70%未満								
	挨拶・返事・後始末を徹底する。	毎朝、毎日、校長と担任・専科教員で指導する。毎朝、校長・副校長・主幹教諭・学年主任が教室・靴箱を点検する。	A	十分にできた。	A	目標達成率…90%以上	B	B	B	B	決まった場所以外で、挨拶すべき人に気付き、すべ挨拶の形態を選択する、という段階に入っている。	TPOを意識して挨拶できるよう指導する。返事の徹底のために、返事をしやすい話し方を教員が身につけられるようにする。下校指導の際に、後始末について確認する。	A	
			B	ほぼ十分にできた。	B	目標達成率…80%以上								
			C	やや不十分であった。	C	目標達成率…70%以上								
			D	不十分であった。	D	目標達成率…70%未満								
3 体(健康・体力)	運動量を確保した体育科授業を推進する。専門家の指導を受ける体験学習を実施する。	校内研修の中で、体育科の授業改善に取り組む。専門家を招いた授業を行い、技能と意欲の向上を図る。	A	十分にできた。	A	目標達成率…90%以上	B	B	B	B	コロナを克服し、長縄、持久走を復活できたことはよい。教員が講師役を務め、領域別に体育科授業の基礎・基本について研修した。教科指導の研修が必要である。	指導教諭を招き、年間を通して研修するようにする。教科指導の基礎・基本を学び合う研修を実施する。研修後、実践し、継続する。	A	校内での指導力向上に向けての取り組みも、大変効果があったと思いました。子どもたちが、意欲的に自ら体を動かしたくなる雰囲気や学校全体が高まったのです。様々な教育課題に意欲的に取り組まれていることがわかり、組織としてのモチベーションの高さを感じます。プール、長縄、持久走と、コロナ前の状況に復活してくださったことに感謝いたします。すでに取り組んでいただいているかとも思いますが、性の教育ももっと外部の講師の力を借りて実施いただき、保護者にも公開していただきたいです。子どもたちの実態に合った課題をもって継続する、ということに期待します。体力の低い子が増えていると思います。専門家を招き、興味をもち、運動に励んでほしいです。体力の中でも持久力は生きる基本です。サッカーやラグビーのボールで楽しみながら遊ぶのも体力向上によいと思います。命の大切さを、いろいろな事例をもとに学べるようにしてほしいです。
			B	ほぼ十分にできた。	B	目標達成率…80%以上								
			C	やや不十分であった。	C	目標達成率…70%以上								
			D	不十分であった。	D	目標達成率…70%未満								
	専門家を招いて特別授業を行って、児童の知識を高める。	命の授業、がん教育、感染症の予防、生活習慣病の予防、喫煙・飲酒の害等の健康課題で専門家を招く。	A	十分にできた。	A	目標達成率…90%以上	B	B	B	B	カリキュラムマネジメントする習慣が、教員の中に定着した。	年間計画は固まったので、より質の高い授業を目指す。教員が事前に研究し、講師に対して授業の進め方を要望することができるようにする。新しい教育課題に対応した授業を計画する。	A	
			B	ほぼ十分にできた。	B	目標達成率…80%以上								
			C	やや不十分であった。	C	目標達成率…70%以上								
			D	不十分であった。	D	目標達成率…70%未満								
4 安心・安全	いじめによる重大事態防止と、不登校による重大事態防止を徹底する。	いじめに対する組織的早期対応を徹底する。不登校の原因究明と家庭支援体制を構築する。	A	十分にできた。	A	目標達成率…90%以上	B	A	B	A	迅速かつ組織的な対応は、教員の中に定着している。	迅速かつ組織的な対応を維持する。新しい教員への年度初めの研修と日々の管理を、主幹教諭を中心にできるようにする。	A	いじめ、不登校、特別支援教育に対しても、組織で一人ひとりに応じて細やかに対応されていることが、結果にも表れ、大きな成果と感じます。きめ細やかな対応と、対応の迅速さを意識して、日々、子どもたちと保護者に向き合ってきたと感じています。いじめの問題は目に見えない場合が多いと思いますので、先生方の「いつもどこかにあるかもしれない」という心構えが大切だと思います。具縦医的事例は見えにくいので、特別支援については、やはり、人材不足で先生方も大変なのではと思います。引き続き、PTA会長会でも要望を提出してまいります。支援員の増員など、学校単位では難しい点もあると思います。保護者でも協力できることがあれば、お声かけください。常に子どもたちに接している教員の方の意見交換することで、正しく優しい対応ができると思っています。コロナ禍が終息していない中、教育目標になっている知徳体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成のため、平常時とは異なるご苦労が多々あったと思います。
			B	ほぼ十分にできた。	B	目標達成率…80%以上								
			C	やや不十分であった。	C	目標達成率…70%以上								
			D	不十分であった。	D	目標達成率…70%未満								
	特別支援教育の視点や家庭環境から分析して、児童の心の安定を図る体制を確立する。	授業・教室のUDに加え、人的環境のUDを構築し、常に児童の問題行動の背景を探って指導にあたる。	A	十分にできた。	A	目標達成率…90%以上	B	A	B	A	ユニバーサルデザインの視点を入れた教育活動に加え、発達検査の結果を踏まえた児童理解へと進化しつつある。	常に特別支援教育の視点で、児童の行動を分析・対応する教職員集団をつくる。そのために、夕会、職員会議、校内委員会等で、繰り返し繰り返し指導・啓発する。日々の実践を発信する。	A	
			B	ほぼ十分にできた。	B	目標達成率…80%以上								
			C	やや不十分であった。	C	目標達成率…70%以上								
			D	不十分であった。	D	目標達成率…70%未満								
5 働き方	教育活動の重点や精選について教職員と毎日対話し、教職員が意欲をもって働き、働き方と教育目標実現を両立する。	休憩時間確保と勤務時間終了厳守を徹底する。理解を得るとともに、補給体制で有給休暇の取得を推進する。	A	十分にできた。	A	目標達成率…90%以上	C	B	C	B	現在の教育課程を維持しながらの働き方の改善は十分に行っていると考えている。	教員の質を高め、維持し、ワークシェアを進める。危機対応・管理能力を高めて、働く喜びがもてる職場を作る。	B	充実した教育活動の推進、高い組織力とともに、働き方改革が実現されていることが驚きです。大きな努力を感じます。中間評価がCだったことが気になる点でした。教員が大変な仕事で、希望する学生が酸っぱいと感じることも聞き、現役の先生方の働き方の改善を含め、ぜひ良い方向へ向かってほしいと思います。先生方がのご努力に頭が下がります。お体も大切になさってください。校内の先生方の様子を見ることができませんので、Bとしました。様々な課題があり、先生方もお忙しいことと思っております。子どもたちへの深い愛情に感謝申し上げます。
			B	ほぼ十分にできた。	B	目標達成率…80%以上								
			C	やや不十分であった。	C	目標達成率…70%以上								
			D	不十分であった。	D	目標達成率…70%未満								
6 連携	児童の中学校進学への期待値を高めるとともに、小中連携教育の取組に対する保護者・地域の理解を深める。	外国語科の授業を中心に教員の乗り入れを積極的に行って、小中連携の取組を効果的に実施し、積極的に発信する。	A	十分にできた。	A	目標達成率…90%以上	B	B	B	B	第三者評価委員会において、講師から指導をいただいた、学力観の共通理解が大切である。	小中連携教育協議会で、目指す学力と授業観を共有し、中学校との乗り入れ授業を活発化する。保幼小中連携教育協議会や見学会で、スタートカリキュラムを共有する。	A	中学校との連携で、子どもたちは、新しい世界が広がっていると感じると思います。長い目で見た子どもたちの成長の課題を捉える大切なシステムだと思います。小中連携が、円滑な接続につながると思っています。保幼小中連携では、担任どうしの連携を推進できたらと思います。
			B	ほぼ十分にできた。	B	目標達成率…80%以上								
			C	やや不十分であった。	C	目標達成率…70%以上								
			D	不十分であった。	D	目標達成率…70%未満								

\*学校関係者による評価の評語は、自己評価結果について以下の観点で行う。

A 自己評価は適切である B 自己評価は概ね妥当であるが根拠資料が不足している C 自己評価と実態との差が大きい D 自己評価方法を見直す必要がある